

(公社)日本技術士会北海道本部 倫理委員会

第7回 技術者倫理フォーラム ～公衆から信頼される技術者になろう～

● 2016年5月20日 ホテル ポールスター札幌 ●

飯野将徳

まえがき

平成28年5月20日～公衆から信頼される技術者になろう～と題して、技術者倫理フォーラムが開かれました。2010年に始まった当フォーラムも、早いもので第7回を迎えることができました。



写真-1 フォーラム会場

当日は、約80名の皆様にご参加いただき、技術者倫理への関心の高さを改めて実感しました。また、今年で3年目になりますが、工業高等専門学校での共同事業や、大学への講師派遣など対外向けの活動も盛んにおこなわれるようになりました。今後も更なる活性化を目指し継続研鑽を重ねていく覚悟でおります。当倫理委員会での活動報告とPRを兼ねて、ここに報告したいと思います。

当委員長である今井技術士より、フォーラム開催にあたり、感謝の意を込め開会の挨拶を致しました。



写真-2 今井委員長

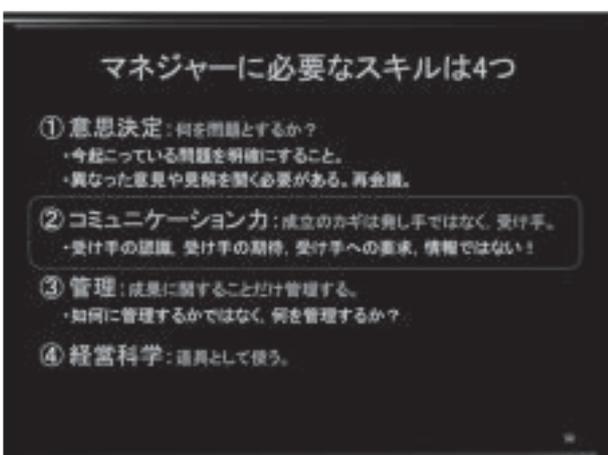
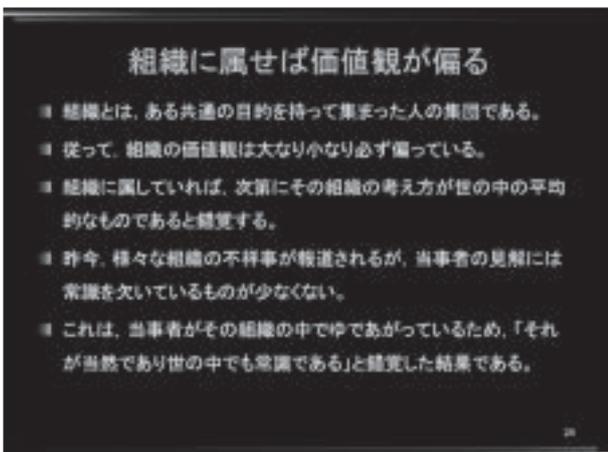
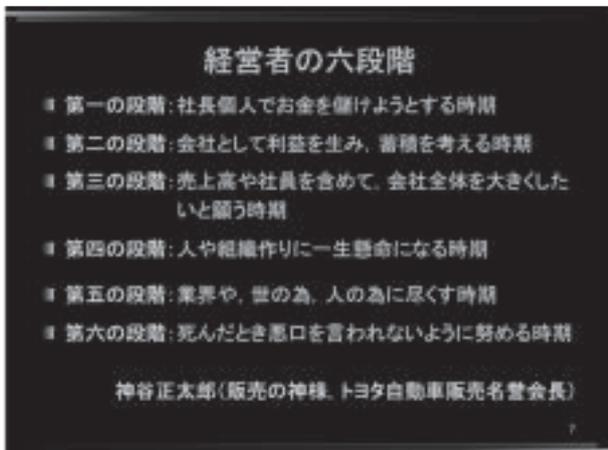
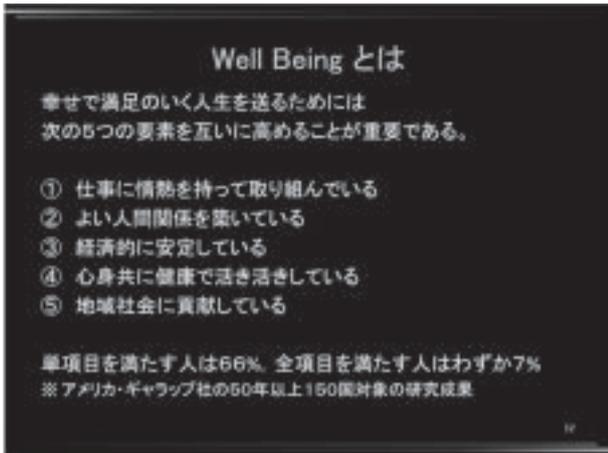
1. 講演1

はじめに、当委員会が共同事業を行っている旭川工業高等専門学校教授の岡田先生から「Well-being～倫理共育への期待～(一より良く生きる一)」と題してご講演を頂きました。岡田先生はご自身も機械部門の技術士としてご活躍され、また日頃より技術者倫理に関する地域活動にも積極的に参加されておりまして、今回のご講演では、well-beingをキーワードとして、人材教育や組織論、コミュニケーションやマネジメント能力の重要性など、倫理教育との関連性のお話を頂き、事故や失敗事例など、一見ネガティブなイメージのある倫理教育ではあるが、視点を変えて実施していくことにより、人材育成をしていくための必要なステップであるとお話を頂きました。



写真-3 岡田教授

- 科学技術の発展のためには夢が必要
 - ネガティブな授業を受けた学生は積極性、多様性に欠けることもある
 - 組織マネジメントの確立には経営者の教育が重要
 - 生きることの幸せを考えると…well-beingの観点からチェックが必要
- など、熱いお話を頂戴しました。



最後に、工業高等専門学校にて教鞭を執られているお立場から、近年の若手技術者の特徴に関するお話を頂き、若手技術者には「責任と役割」を与えることが重要で、その達成感から向上意欲が促進され、次第に人格が形成されていくのではないかなど、今後の人材育成のヒントを頂くことができました。

2. 講演 2

講演 2 として、わが倫理委員会の委員でもあります富澤技術士に「技術者の職務義務と積極的倫理(一出る杭は打たれるか一)」と題して講演頂きました。杭打機の偽装事件に端を発した技術者としてあるべき倫理の概念についてお話がありました。



写真-4 富澤技術士

講演の主要テーマとして3点を上げ、
 ○社会的課題については、市場原理、組織への埋没、自我の喪失など「職務義務」の観点からの意識改革が必要であること
 ○積極的倫理については、レジリエンス・エンジニアリングの観点から後継者の倫理教育の必要性など「自律的意義」の重要であること
 ○技術者責務については、杭打ち改ざん問題を事例に、施工現場の実態や執行体制の現状なども踏まえ、工学的、倫理的対応の必要性についてのお話がありました。

技術実践に対しても倫理的思考が重要であり、その感覚は、技術者全体が共有感を持って臨むべきと、いつも変わらぬ深みのある「結びの言葉」を頂きました。

3. 事例研究報告

最後に、同じく当倫理委員会の委員であります、

A. 社会的課題 職務義務

- ・市場原理主義
経済活動する他人の同じ自由を妨げないルールであって、お金・儲けのみの追及ではない
- ・組織に埋没
組織内の技術者義務・義務は規範への順応制であり、組織の営利競争の理儀であってはならない
- ・自我を喪失
自己一貫性やアイデンティティを見失い、日々の仕事に忍従してはいないか

B. 積極的倫理 自律的意義

- ・倫理積極性
倫理は行為の規範であり学問・経営等に従属するとされるものとされてきたが、今後自ら積極的に地域貢献・弱者救済を前面に掲げるべき
- ・レジリエンス・エンジニアリング
仕事のためのルーチンではなく、課題者の倫理教育が必須
- ・方向性思考
倫理は善悪を決めるものではなく、技術者の姿勢を重視する。競争ばかりでなく、共通認識を持つべきであり、技術者も公衆の一部である。

C. 技術者義務 工学的対応

支持杭の長さ不足のイメージ

杭打ち改ざん問題を事例

1. 概設計施工原理原則
2. 何故、改ざんがなされたか？
3. 図策～管理適正・資格
4. 現行積算・監理体制の不備
5. 倫理的解決のヒント

一隅を照らすは国の宝なり
人命は地球より重い

あらゆる技術実践に対し倫理的思考が重要
技術者の上下無し、共有観が必須

山本技術士に「内部告発者の保護・救済に関する倫理的課題（一技術者倫理教育の教育資材として）」と題して、事例研究報告を頂きました。



写真-5 山本技術士

今年度の当委員会の活動は内部WGの他、積極的な対外活動を推進しており、当該報告はその活動内容および使用した教材の一部をご紹介します内容となりました。

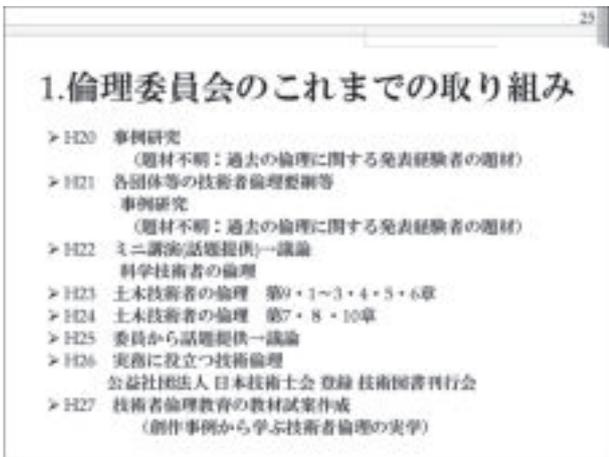
事例研究報告は、「内部告発者の保護・救済に関する倫理的な課題」について、法的、倫理的観点から過去の救済保護事例等の整理結果を示すとともに、教材として作成した創作事例や当委員会のこれまでの取り組み状況について報告頂きました。

また、当委員会でH27年度に実施した旭川高専での共同事業について報告され、学生さん達との活発なコミュニケーションの様子が紹介されました。

内部告発者の保護・救済

1. 内部告発とは
2. 内部告発と内部通報
3. 技術者が陥るジレンマ
4. 告発される組織内の不正行為
5. 内部告発の道徳的正当化条件
6. 日本の内部告発の状況
7. 旭川高専共同授業での学生の意見

これから社会人として巣立っていく子供たちの教育現場において、技術士が大いに期待されていることや、活躍の場がますます広がっていく傾向にあることなど、学校での共同授業に携われた感想を述べられ、講演は無事終了となりました。



4. 情報交換会

フォーラム終了後、「第7回技術者倫理フォーラム」の開催を記念して情報交換会が開かれました。

能登本部長をはじめ、大熊、森副本部長など、多くの方々からご挨拶を頂き、フォーラムでの講演や報告内容も含め、当委員会活動について貴重なご意見やアドバイスを頂くことができました。

少し堅苦しいイメージの倫理委員会ではありますが、参加メンバーの顔がほころぶ、ひと時となりました。



写真-6 情報交換会

あとがき

平成20年6月に、会員数13名の「倫理問題研究会・準備会」として発足し、早いもので8年が経過しました。「倫理」というとお堅いイメージを想像しますが、決して「倫理正しき人」になることだけを目的とした会ではありません。倫理的課題に関する事例研究を通じて、時には技術職、管理職、経営者としての視点も交えながら議論をすることによって、「判断のよりどころ」を自分なりに習得できるようになろう、とするのが、発足当時から目的です。

百戦錬磨のメンバーの中には「倫理」にはちょっと違和感のある参加者もチラホラ。一技術者としての「過去の反省」…を思い起こしながらの議論は、中々味わい深いものがあります。もちろん、純粋な？技術者の方々の参加も頂き、教材の充実、対外活動など、委員会の活性化は更なるものがみられます。

今回のフォーラムの最後に、当委員会の相談役である花田技術士より皆様に一言お願いがありました。「皆さんも委員会(研究WG)のメンバーとの意見交換や交流を通じて、技術者倫理について少し考えてみませんか？ 自己啓発、若手技術者の人材育成等々、きっとお役に立てると思いますよ～マチガイナイ！～皆様の参加をお待ちしております。」



写真-8 花田技術士

飯野将徳(いいの まさのり)

技術士
(上下水道/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
倫理委員会 幹事
株式会社日水コン 北海道支所

